

昭和大学附属烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕 病 院 長 岩波 明
〔編集責任者〕 広報委員長 常岡 俊昭
〔住所〕 〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕 03-3300-5231(代表)

第 1 7 9 号

[2 0 2 2 年 7 月 3 1 日 発]

第 118 回日本精神神経学会学術総会に参加して

I 精神神経科 助教(医科) 北風 和也

「第 118 回精神神経学会」が令和 4 年 6 月 16 日(木)から 6 月 18 日(土)の期間で福岡国際会議場・福岡サンパレスホテル&ホールで、COVID-19 対応の一環・現代の学会運営の観点から現地開催、ライブ配信、オンデマンドを併用して開催されました。学会テーマは、「変わりゆく世界とこころ、見つめる精神医学」であり、テーマに則った COVID-19 の蔓延による精神医学への影響、デジタル通信技術を用いた精神医学の教育など興味深いテーマの発表もみられました。会場内は、密になることなく適度な間隔を聴衆は保ち、質疑内容も盛んにされていました。

私は「成人期に精神病症状・てんかん発作を呈するようになった Sturge Weber Syndrome の 1 例」というテーマでポスター発表を行いました。フロアからの質問や貴重なご意見をいただき、日々の業務の中で私達が行っている治療の妥当性について再確認するとともに貴重な機会になりました。総じて今後の診療や研究に対してのモチベーションが高まる素晴らしい学会でした。

オンデマンド配信が令和 4 年 7 月 1 日から 9 月 30 日まで開催されているため、現地参加ができなかった先生方にも是非ご参加いただきたいです。

II 精神神経科 助教(医科) 丸岡 慎太郎

2022 年 6 月 16 日から 6 月 18 日まで福岡県で開催された第 118 回日本精神神経学会学術総会に参加させていただきました。セッションは多岐に渡り、最新の知見と共に、個別の具体的な取り組みについても学ぶことができました。私は「うつ病を前駆状態として発症したレビー小体型認知症の一例」の題目でポスター発表をさせていただきました。うつ病と認知症の鑑別についての報告は他にも多数みられ、日常の臨床の場で遭遇する頻度の高さと同時にその鑑別の難しさを実感しました。同じような経験を共有する先生方から、様々なアドバイスをいただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。全国各地から集まった精神科医療に関わる人々と直接交流できるのは現地参加のメリットだと感じました。また、年次の近い先生が頑張っている様子を見ることで日々の診療に対するモチベーションも高まりました。

最後になりますが、私自身の発表にあたり、多くの先生方にご指導いただきました。この場を借りて改めてお礼を申し上げます。

ギャンブル等依存症問題啓発週間フォーラム

精神医学講座 講師 常岡 俊昭

山口県阿武町の誤送金問題でも話題となったオンラインカジノ。ちょうど同じ時期、5月14日から20日までがギャンブル等依存症問題啓発週間だったことをご存じでしょうか？啓発週間に合わせて全国で色々なイベントが行われましたが、東京でも5月18日に『2022年度 ギャンブル等依存症問題啓発週間フォーラム』が開催されました。

第1部ではオンラインカジノについてギャンブル依存症の当事者や家族・自助団体が体験談や回復への過程を話してくれました。オンラインカジノは振り込むと30分以内に反映されるのに引き出すためには1か月の審査が必要なので、その間にギャンブラーたちは再度賭けてしまい、結局引き出せないまま終わる事が多いのだそうです。

第2部のシンポジウムでは、内閣総理大臣補佐官の中谷元氏、内閣官房ギャンブル等依存症対策推進本部事務局参事官の榎本芳人氏、東京都十一市競輪事業組合及び業務課副主幹兼事業係長の松波基成氏、立川市公営競技事業部事業課事業課長の福家健三氏と共に常岡も出席し、「オンラインカジノは違法か、合法か」というテーマを皮切りに意見が交わされました。

オンラインカジノは明確に違法である一方で（岸田総理が明言していました）、現行法で調査・逮捕しにくい実情もあり、有名芸能人がCMに登場したりなどしていることが問題であることが共有されました。ギャンブル障害に限らず依存症は病院・医療だけで治すことは難しく社会の理解・後押しも必要です。依存症者が安心して治療に専念できるように政治家の方々にも協力頂ければと感じました。また、病院にいと「アルコール」「ギャンブル」で大変な状態になっている方とばかり会うので「アルコール」や「ギャンブル」の存在が悪いかのように思いがちですが、それぞれで生活が彩られている人々もいるはずでギャンブルの運営側も含めたシンポジウムは多角的に考える点で非常に興味深いものになりました。

その後、6月10日にはギャンブル依存症問題を考える会など5団体が、岸田文雄首相や関係省庁にオンラインカジノに関する法規制を求める要望書を提出しました。

依存症の治療は医療のみでは難しいですが、医療も力になれる部分は多くあるはずで。今後も政治・社会の動きを注視しつつ医療で出来る事を行っていきたいと思っています。周りに「止めたいけどやめられない」と言っている人たちがいたら、ぜひ自助グループや当院のアディクション外来を紹介してあげてください。

5月14日～20日はギャンブル等依存症問題啓発週間です

2022年度
ギャンブル等依存症問題啓発週間フォーラム

2022年
5月18日(水)
pm6:30～8:30
星陵会館
東京都千代田区永田町 2-16-2

予約不要 参加無料

第1部 基調講演
「急増するオンラインギャンブル！
依存症対策の現状と課題」

講師
田中 紀子
公社)ギャンブル依存症問題を考える会代表

体験談
ギャンブル依存症の当事者、家族
当会に寄せられた相談データを元に、依存症対策の現状と課題について基調講演を行い、当事者・家族の体験をお話させていただきます。

第2部 シンポジウム

登壇者
中谷 元 先生
内閣総理大臣補佐官

榎本 芳人 様
内閣官房 ギャンブル等依存症対策推進本部事務局参事官

松波 基成 様
東京都十一市競輪事業組合 業務課 業務課副主幹兼事業係長

福家 賢三 様
立川市公営競技事業部事業課 事業課長

常岡 俊昭 先生
昭和大学附属烏山病院 精神科医

ギャンブル等依存症対策について先駆的取り組み事例を発表し、対策の課題や連携のあり方についてディスカッションいたします。

※コロナ感染予防対策のため、マスクの着用、検温、消毒にご協力願います。
※プログラムは予告なく変更になる場合がございます。ご了承下さい。

主催： 公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会
〒104-0033 中央区新川1-21-5 夢場町タワー 105号

お問い合わせ先： TEL 03-3555-1725 FAX 03-6222-8128
Mail info@sga.jp

2022/4

私の休日の過ごし方

薬局長 黒沢 雅広

新型コロナウイルス感染症の流行の波がなかなか落ち着かない昨今ですが、皆さんは休日をどのようにお過ごしでしょうか？

私の場合、小型1級船舶免許を取得するくらい沖釣り（船で沖に出る釣り）が好きなのですが、単身赴任の身である現在、釣り道具一式は自宅の倉庫で眠っています。東京に来てからの趣味と言えば、高尾山登山が挙げられます。スポーツ用品店で登山靴（スニーカーでもOK）や、ウエア類（ジャージでOK）、リュックサック（無くても良し）を揃えれば、もう



その日から登山を楽しむことが出来ます。はじめは1～6号まであるルートをよく理解していませんでしたが、最近は6号路→2号路→高尾山頂→小仏城山でひと休み（なめこ汁と味噌田楽が楽しみ。おでんも美味し）→帰りは5号路→3号路→2号路→琵琶滝→下山の20000歩3時間コースがルーティーンになっています。高尾山を歩いていると、大自然の心地よい空気、野鳥のさえずりはもちろんのこと、時々ヘビと間違えるうどん大のミミズやエメラルド色に輝くニホントカゲに遭遇して、一瞬心臓が止まりそうになります。そして、高尾山登山で何よりも一番しんどいのが、人工的に作られた階段です。安全のために設置したと思いますが、果てしなく続く階段を上っていると、「これは登山だろうか？」と疑問を感じずにはられません。巣ごもり状態で運動不足な皆さんも、ぜひ登山の終盤に体力を奪う人工的な階段を体験してみませんか？

入院患者さん対象のセンターOTが再開しました

～皆様のおかげです～

作業療法士 小林 崇志

『センターOT⇔OT室で行う作業療法』は、病棟ではなかなか実施できない活動を通じたリハビリテーションです。病棟から離れて活動を行うことは“それだけで息抜きになる！”といった声を多く頂きます。“作業”って奥が深いもので、行う“空間”や一緒に行く（過ごす）“他の人”の存在によって、充実感や達成感、有意味感が変わります。例えば、場所を移すことで作業に没頭する時間をもつことができたり、自分の大切な作業にじっくりと浸って癒されたり、各個人の目標達成や課題解決に向けた活動に集中できたりと、様々なメリットがあります。

さて、目標や課題というと中々ピンとこない方や“何から取り組んだらいいかわからない”という方もおられるかと思います。…が、ご安心ください。1回2時間のセンターOTに対して最低2名の作業療法士がついておりますので、相談しながら一緒に取り組むことが可能です。作業を行うことはそれ自体が“経験”になります。経験することで、今の自分の状態に気づき、今後の目標（夢）や課題等が浮かびあがることもあります。

コロナ禍が続く中、そんな作業の場が再開でき、維持できることは、皆様のご協力と後押しがあってこそだと思います。この場を借りて感謝申し上げます。

デイケア活動 陶芸

Mさん

デイケアでは水曜日の午後陶芸プログラムがあります。粘土をこねて想像力と個性を發揮させ、器や置物など各自作りたい形を作っていきます。粘土をこねるのは気持ちいいし楽しくて癒しになるので、良い感覚統合訓練になっているのではと感じています。形を作ったら、OT室にある窯で素焼きをします。窯が備わっているのは他ではなかなかないので設備が充実しているからこそできるプログラムだと思います。その後好きな色の釉薬(ゆうやく)を塗って、本焼きをして完成となります。本焼きすると釉薬の色が変わって、粘土の形になじみ深みのある綺麗な色になります。私は焼いた時失敗して何度も割れてしまいショックでしたが、その分成功すると達成感があって嬉しいです。



総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時

土曜日 8時30分～13時

電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329

土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時

◎休診日：日祭日・本学創立記念日・年末年始

《6月》 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数 8,421(7,950) 6,133(5,781)

◇一日平均患者数 280.7(265.0) 235.9(231.2)

◆診療実日数 30(30) 26(25)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。



こちら当院のホームページのQRコードとなります。

ぜひご覧ください。



【編集後記】

あつという間に梅雨明けが発表され、梅雨はどこへ？と思ったのは私だけでしょうか。突然訪れた猛暑、皆様体調崩されていませんか？感染対策をしながら、どうぞ水分補給やマスクを適度に外し、呼吸を整える等、熱中症対策されてくださいね。

暑さうんざりはきっと人間だけでなく、病院の植物も太陽が有難い傍ら、雨が降らず、適宜水やりを行っています。昨年看護師さんから朝顔種を頂き、沢山の花が咲き、収穫した種を今年蒔きました。気の早い昨年のこぼれ種が、既に開花し、病院に涼しい彩りを添えています。病院にお越しの際は、暑さ厳しい日々ですが、涼し気な朝顔に癒されていただけたらと思っています。

まだまだ暑さが続きますので、どうぞご自愛ください。

(広報委員 武藤)